

# 幼児のしなやかな心と体の発達を促すための環境構成と援助の工夫

～友達とのつながりを感じる運動遊びを通して～

うるま市立城前幼稚園 教諭 金子 恵子

## 目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究目標	1
III	研究仮説	1
IV	研究の全体構想図	2
V	研究内容	
1	幼児期における遊び	3
2	幼稚園教育における環境	3
3	運動遊び	4
4	しなやかな心と体	5
5	幼児期運動指針の概要	5
6	運動遊びに関する年間計画	6
VI	指導の実際・仮説の検証	
1	指導計画と検証保育までの実践（検証保育Ⅰ）	7
2	保育実践指導案Ⅰ	9
3	仮説の検証（検証保育Ⅰ）	11
4	保育実践指導案Ⅱ	15
5	仮説の検証（検証保育Ⅱ）	17
VII	研究の成果、課題・対応策	
1	成果	20
2	課題・対応策	20
	《参考・引用文献》	20



# 幼児のしなやかな心と体の発達を促すための環境構成と援助の工夫

～友達とのつながりを感じる運動遊びを通して～

うるま市立城前幼稚園 金子 恵子

## I テーマ設定の理由

幼児期にのびのびと体を動かして遊ぶことは、心身の調和的な発達を促す上で重要な意味を持つものである。しかし、今日の子ども達を取り巻く環境は、変化し、遊びの質の低下、量の減少が顕著である。幼児にとって、体を動かして遊ぶ機会が減るということは、その後の身体育成の阻害にとどまらず、意欲や気力、コミュニケーション能力の構築にも大きく影響を及ぼすと考えられる。

平成24年に文部科学省は、日本の子ども達の体力の低下を危惧し、幼児期からの取り組みが必要であると「幼児期運動指針」を策定した。この指針は幼児期からの運動習慣を通して体力、運動能力の基礎を培うと共にさまざまな活動への意欲や社会性、創造性を育むことを目指しているものである。

また、幼稚園教育要領では、領域「健康」において、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う。」さらに、領域「人間関係」において「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う。」と示されており、幼児が様々な環境に取り組んで活動を展開することを通して、色々な場面に対応できるしなやかな心の働きや体の動きを体得していくことが求められている。

本学級の実態をみると、幼児一人一人の生活経験の差が大きく、遊びへの興味・関心、取り組み方も様々である。私自身のこれまでの保育実践を振り返ってみると、「ごっこ遊び、集団遊びの中での揉み合いの経験が十分量保障できなかった。」「運動遊びへの興味・関心が高い子に照準を当てた片寄った活動になりがちだった。」など幼児のしなやかな心と体の発達を促すという視点で課題があった。それらの課題を解決していくために、どの子も友達同士での体と体の触れ合い、心と心の通い合いが経験できるような活動を意図して展開していく必要性を感じている。

そこで、本研究では、幼児が友だちとのつながりを感じながら、体を十分に動かして遊ぶ楽しさや充実感を味わえるよう、幼児の興味・関心に添った活動の充実やそのための環境構成の工夫・改善に努めていけば、しなやかな心と体の発達を促すことができるだろうと考え、本テーマを設定した。

## II 研究目標

友だちとのつながりを感じる運動遊びを通して、幼児のしなやかな心と体の発達を促す環境構成と援助の工夫を研究する。

## III 研究仮説

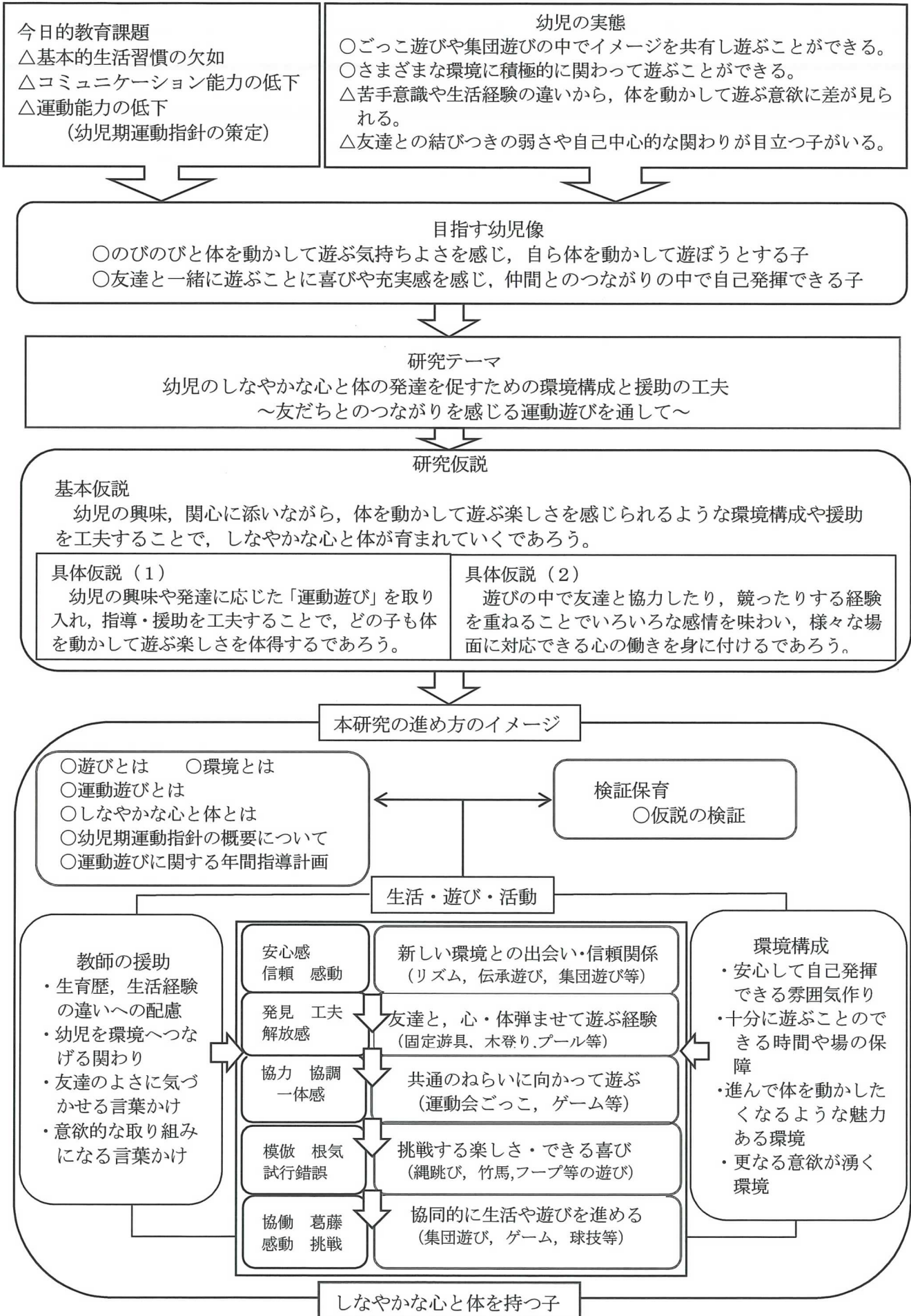
### 1 基本仮説

幼児の興味・関心に添いながら、体を動かして遊ぶ楽しさを感じられるような環境構成や援助を工夫することで、しなやかな心と体が育まれていくであろう。

### 2 具体仮説

- (1) 幼児の興味や発達に応じた「運動遊び」を取り入れ、指導・援助を工夫することで、どの子も体を動かして遊ぶ楽しさを体得するであろう。
- (2) 遊びの中で友達と協力したり、競ったりする経験を重ねることでいろいろな感情を味わい、様々な場面に対応できる心の働きを身に付けていくであろう。

#### IV 研究の全体構想図





## V 研究内容

### 1 幼児期における遊び

#### (1) 遊びの本質について

幼児期における遊びの本質について、幼稚園教育要領解説第1章3-(2)では、「人が周囲の事物や他の人たちと思うがままに多様な仕方で応答しあうことに夢中になり、時の経つのも忘れ、そのかわり合いそのものを楽しむことにある。すなわち遊びは、遊ぶこと自体が目的であり、人の役に立つ何らかの成果を生み出すことが目的ではない。」と説かれている。

また、野尻裕子(2008)は、「子どもにとって遊びは生活そのものであるといわれるように、子どもは日々の遊びの中でさまざまな経験をする。(中略)自分の興味に基づき自発的に展開する活動としての遊びにおいて、物的にも人的にも多様なかわりをもつことは心身の調和のとれた発達の基礎となり、また総合的な発達が期待できる。」と幼児期における遊びの位置づけを行っている。

このことから、子どもが興味を持って自発的に遊ぶことそのものが、子どもにとっての内面の充実や自己充実に深くかかわる、かけがえのないものであると考える。

#### (2) 遊びを通した総合的な指導について

幼稚園教育要領解説の第1章3-(2)の②総合的な指導の中で、「遊びを展開する過程においては、幼児は心身全体を働かせて活動するので、心身のさまざまな側面の発達にとって必要な経験が相互に関連し合い積み重ねられていく。つまり、幼児期には諸能力が個別に発達していくのではなく、相互に関連し合い、総合的に発達していくのである。」と記されている。

また、西久保礼造(1999)は『総合的な指導』とは端的に言えば、幼児の状態に応じて、必要な事項を各領域の垣根を取り払って指導する」と定義している。

このことから、保育者は遊びながら総合的に発達を遂げていく幼児の姿に添い、自身が広い視野と発達の見通しを持ち保育を展開し、その場面に応じた役割を果たしていかなければならないと考える。

#### (3) 遊びを豊かにするための教師の役割について

幼稚園教育要領の第3章 指導計画の作成上の一般的な留意事項の中に、「幼児の主体的な活動を促すためには、教師が多様なかわりをもつことが重要であることを踏まえ、教師は、理解者、共同作業者など様々な役割を果たし、幼児の発達に必要な豊かな経験が得られるよう、活動の場面に応じて、適切な指導を行うようにすること。」と謳われている。

このことから、教師は幼児の興味・関心を引き出し、活動の幅を広げ、遊びを豊かにしていけるよう以下の役割を明確にし実践していく必要があると考える。

- ① よき理解者としての役割
- ② 幼児の共同作業者としての役割
- ③ 憧れを形成するモデルとしての役割
- ④ 遊びの援助者としての役割
- ⑤ 意図的、計画的な環境を構成する役割

### 2 幼稚園教育における環境

#### (1) 環境について

西久保礼造(1997)は、「環境は幼稚園の施設、設備、園具、遊具、用具、材料だけではなく、幼児が身近に接する自然や社会環境などを含めた事物・現象や保育者をはじめとした幼児に接する人々、更にそれらが醸し出す雰囲気、時間、空間など、幼児を取り巻く状況のすべてを指す。」と述べている。

また、幼稚園教育要領解説の第1章第1節の幼稚園教育の基本において、「幼稚園教育においては、教育内容に基づいた計画的な環境をつくり出し、その環境にかかわって幼児が主体性を十分に発揮して展開する生活を通して、望ましい方向に向かって幼児の発達を促すようにすること、すなわち『環境を通して行う教育』が基本となるのである。」とある。

このことから、子ども達が生き活きと活動する中で心身の発達を促していけるよう、工夫と配慮を凝らした環境を整えていく必要があると考える。



## (2) 環境の構成について

後藤節美(2008)は、環境の構成について「幼児の発達にそって、どのようなことを身につけてほしいかという具体的なねらいや経験する内容を含ませ、幼児が興味や関心を引きおこし主体的にかかわる活動ができ、しかもその中で成長に必要な体験を重ねていけることをふまえ、物理的・心理的な状況を作り出す営みをいう。」としている。また、幼稚園教育要領解説の第2章第3節3留意事項(1)「環境を構成する視点」の中では環境の構成を考える際の大事な視点が3つ示されている。

○発達の時期に即した環境      ○興味や欲求に応じた環境      ○生活の流れに応じた環境

これらを受け、柴崎は特に興味や欲求に応じた環境について「子どもと共につくり出す環境」として述べている。

## (3) 子どもと共につくり出す環境について

柴崎正行(2000)は、子どもと共に環境を作り出す際のポイントを以下①～④までで示している。

- ①子どもの気持ちを大事にしていく
- ②子どもの発想を生かしていく
- ③子どもの必要性に応じていく
- ④子どもと共に進めていく

今回の研究では、これらのポイントを本時の運動遊びの際の環境構成に取り入れ実践する。

## 3 運動遊び

平成20年の幼稚園教育要領の改訂では、領域「健康」の「内容の取扱い」の中に、「十分に体を動かす気持ちよさを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること」という文言が新たに追加された。このことから、幼児の心身の発達を促す上での運動遊びが果たす役割は大きいと考える。

### (1) 運動遊びについて

岩崎洋子(2008)によると、「遊びの中で活発に体を使う遊びを運動遊び」として、「走る・跳ぶ・投げる・転がる・泳ぐなど全身運動をとまなう遊びや運動遊具、固定遊具を使う遊びなどに用いられることが多い」と述べている。また、鬼遊びやゲーム的な集団遊びもその要素を含むとする説明もある。

杉原隆 柴崎正行 河邊貴子(2001)は、運動遊びについて「運動が子どもにとって興味をひく意味のあるまとまりとして行われる時、運動遊びとなる。」と、子どもの興味・関心を大切にする立場から述べている。

### (2) 運動遊びの環境構成と教師のかかわりについて

運動遊びにおいては、子ども達が心と体を弾ませながら、のびのびと遊ぶ楽しさを味わうことが大切である。その結果、多様な体の動きが身につき、動きの洗練化が図られていくことが望ましいと考える。表1は柴崎らの理論とこれまでの保育実践を踏まえ、まとめたものである。

表1 運動遊びにおける環境構成と教師のかかわりについて

環境構成の視点	教師のかかわり
<p style="text-align: center;"><b>*思わず体を動かしたくなる環境作り*</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児が「遊びたい」「やってみたい」と感じ、興味や関心を持って遊びを選択していけるような空間や遊具、用具の配置を工夫し魅力ある環境を作る。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>*教師がモデルとなって*</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師自らが、楽しそうに体を動かして遊ぶ姿を見せることで、進んで体を動かそうとする意欲を触発し、解放感や充実感を味わわせていく。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>*さまざまな動きに挑戦できる固定遊具の工夫*</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単独では飽きてしまった固定遊具も、幼児の発想や遊びの流れに合わせて組んで設置し、多様な動きに挑戦できる場やごっこ遊びなどができる場になる。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>*言葉かけの工夫*</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・させたい動きを生み出したり、さらに動きを豊かにしたりすることができるような言葉かけを工夫する。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>*安全面に配慮した環境*</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冒険や挑戦の対象、また遊びの価値のひとつである「リスク」は残しながら、命や安全に直結する「ハザード」を環境から取り除く。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>*個に応じた指導・援助の工夫*</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の実態を把み、同じ遊びでもその子が感じている遊びのおもしろさを捉え、それに応じて遊びを膨らませる援助や必要な指導を行っていく。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>*自由度(選択肢)があり、自己決定できる環境*</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの遊びでも、距離や高さに変化をつけることで、幼児自身が自分の力に応じた環境を選択できる。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>*幼児の思いや活動をつなぐ*</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの考えを伝えあう姿を見守る。葛藤場面は心の成長を支える大事な経験と捉え慎重にかかわる。</li> </ul>

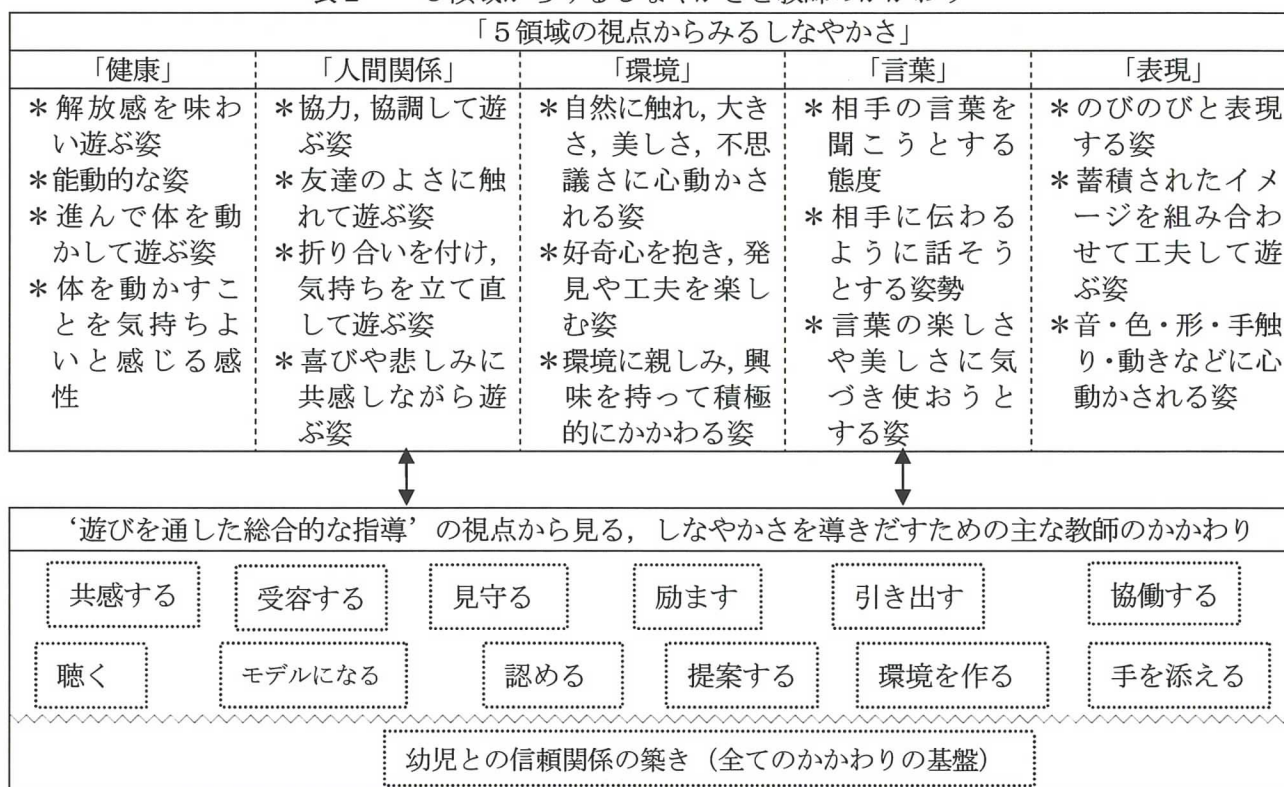
#### 4 しなやかな心と体

幼稚園教育要領解説第2章第2節 心身の健康に関する領域「健康」の[内容の取扱い]において、「心と体の健康は、相互に密接な関連があることを踏まえ、幼児が教師や他の幼児との温かい触れ合いの中で自己の存在感や充実感を味わうことなどを基盤として、しなやかな心と体の発達を促すこと。特に、十分に体を動かす気持ちよさを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること。」と示されている。

また、鹿児島県総合教育センターの指導資料においては、「『しなやかな心と体』とは、いろいろな活動の場面で、幼児が、その場に応じた適切な心の働きができることと、その場に応じた多彩な体の動きができることである。」と記されている。

以上のことを踏まえ、本研究では、しなやかな心と体とは「ひと・もの・ことと柔らかにかかわりを持つようとする、のびやかな心身の状態」のことで捉える。表2は、発達の5つの側面である5領域から「しなやかな心と体」の姿、態度等を見つめまとめたものである。

表2 5領域からみるしなやかさと教師のかかわり



#### 5 幼児期運動指針の概要

##### (1) 幼児期運動指針の背景と意義について

幼児期運動指針（平成24年3月策定）が作られた背景には、子どもの体力低下問題がある。運動習慣の基礎づくりを通して、幼児期に必要な多様な動きの獲得や体力・運動能力の基礎を培うとともに、様々な活動への意欲や社会性、創造性などを育むことを目指し、幼児期運動指針が策定された。

##### (2) 幼児期運動指針について

指針の骨子1.

「幼児は様々な遊びを中心に、毎日、合計60分以上、楽しく体を動かすことが大切である。」

その推進に当たって重要となる3つのポイント

指針の骨子2. 多様な動きが経験できるように様々な遊びを取り入れること

指針の骨子3. 楽しく体を動かす時間を確保すること

指針の骨子4. 発達の特性に応じた遊びを提供すること



(3) 幼児期における発達の特性について

① 全般的な発達の特性

幼児期は、心と体が相互に関連しながら、総合的に発達していく。

② 運動の発達の特性と動きの獲得の考え方

ア 基本的な動きの種類を増大させていく「動きの多様化」

イ 基本的な動きが質的に変容する「動きの洗練化」

- ・体のバランスをとる動き
- ・体を移動する動き
- ・用具などを操作する動き

③ 小学校とのつながり

平成20年に改訂された小学校学習指導要領の体育科においては「体づくり運動」が低学年から位置づけられた。発達の連続性の視点からも、幼児期に遊びの中で多様な動きを自然に身に付けていけるような実践が求められる。

6. 運動遊びに関する年間指導計画

運動遊びを通して、しなやかな心と体の発達を促すためには、一年を見通した計画的な指導が必要である。表3は、1年を通した幼児の発達の過程と期を踏まえた遊びをまとめたものである。

表3 運動遊びに関する年間指導計画

期	I期(4・5月)	II期(6～8月)	III期(9・10月)	IV期(11・12月)	V期(1～3月)
幼児の姿	・新しい環境に対し期待と不安があり、教師とのかかわりの中で安定して過ごす。 ・集団生活の有無や生活経験の違いから個人差が著しい。	・園生活の流れや基本的な生活習慣の仕方がわかり、自分でやろうとする。 ・自己主張が強くなりトラブルや葛藤を経験していく。	・友達や学級のみならず共通のねらいに向かい協力して遊ぶ。 ・自分なりの目標を持ちさまざまな遊びに挑戦し遊ぶ。	・友達とのつながりが深まり、ルールのある遊びにも意欲的に取り組む。 ・自分達で相談や役割分担をし、協力して遊ぶことができる。	・これまでの経験を活かし、協同的に生活や遊びを展開していく。 ・就学への期待が高まり、自信を持って生活を進めていく。
ねらい	◎新しい環境(ひと・もの・こと)に自分なりにかかわりながら遊ぶ楽しさを味わう。	◎夏ならではの環境にかかわりながら全身を使って遊ぶ解放感を味わう。	◎友達と同じ目標に向かい協力して遊ぶ充実感や達成感を味わう。	◎いろいろな遊びに意欲的に挑戦し、できるようになる喜びを味わう。	◎個々が力を発揮し、友達のよさを感じながら協同して遊ぶ楽しさを味わう。
内容	・好きな遊びをする。(固定遊具、伝承遊び等) ・安全な遊び方を知る。 ・集団遊びを楽しむ。	・水に親しみ、全身を使って遊ぶ。 ・体育館で設定された遊びを楽しむ。	・自分らしくのびのび表現し、協力する楽しさを体感する。	・自分の課題に向かい繰り返し挑戦する。 ・教えたり励まし合ったりしながら遊ぶ。	・ルールを伝えあって遊んだり、新しい遊びを作ったりして楽しむ。
主な運動遊び	固定遊具・砂遊び等 (ブランコ・滑り台・うんてい・ジャングルジム・土山・木登り・砂遊び等)				
	ふれあい遊び リズム 体操 ゲーム 大型積み木 園庭散策等	室内での遊び ・アスレチック(平均台・跳び箱・マット) ・足じゃんけん ・進化じゃんけん ・身近な素材(新聞紙やゴム、ロープ)を使った遊び ・運動カードを使った遊び等	プール・水遊び(ボディーパーティンティング等)	挑戦して遊ぶ(縄跳び・長縄・竹馬・フープ・ホッピング・スケーター・けんば・鉄棒・のぼり棒・ぼっくり・やっこ等)	運動会ごっこ(ダンス・リレー・玉入れ・組体操・エイサー・綱引き等)
	ボール遊び・円形ドッジボール・転がしドッジボール・サッカー・バレーボール等				
	集団遊び(オオカミさん今何時?・しっぽとり・蛇じゃんけん(陣取り)・かもとりごんべえさん・大根抜き・ヒューマンサッカー等) (鬼ごっこ・色鬼・高鬼・氷鬼・かくれ鬼・かげふみ鬼・手つなぎ鬼・子トロ・ネコとネズミ・マラソンごっこ等)				
	伝承遊び(なべなべそこぬけ・花いちもんめ・かごめ・あぶくたった・ハンカチおとし・おしくらまんじゅう・はねつき・まりつき等)				
沖縄の伝承遊び (じんじん・いっちくたっちく・こーじゃーうまぐわ・なーみなーみわんわちやくり・ていーちえーていどうくん等) (手遊び) (じゃんけん) (縄遊び) (お手玉)					

本研究ではこれらの内容を土台にして、「友達とのつながりを感じる運動遊び」の保育実践を通し、幼児のしなやかな心と体の発達を促すために有効な環境構成や援助の在り方を探っていきたい。

## VI 指導の実際・仮説の検証

### 1 指導計画と検証保育までの実践

#### 検証保育 I

月 日	保育活動	ねらい	☆環境構成 ♥教師の援助
11月1日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「からだであそぼう」 友達と触れ合ったり力を合わせたりして遊ぶ。</li> <li>・絵本『わんぱくだんのロボットランド』</li> </ul>	<p>◎友達と一緒にのびのびと体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。</p> 	<p>☆運動カードを活用し期待感を高め、視覚化することで自分達で考えて取り組めるようにする。</p> <p>♥相手の思いや力加減を感じながら、協調して遊ぶ姿を具体的に褒めていく。</p>
11月6日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「新聞紙で遊ぼう」 身近な素材を運動遊びの道具として扱い多様な動きを楽しむ。</li> </ul> 	<p>◎友達と一緒にさまざまな動きに挑戦する楽しさを味わう。</p> 	<p>☆もの（新聞紙）との関わりを十分考えたり、競争では作戦を立てたりする時間を設ける。</p> <p>♥3人組の遊びでは、役割を相談したり、折り合いを付けたりする姿を認めていく。</p>
11月7日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸外遊び（集団遊び・竹馬・フープ）</li> <li>・絵本『わんぱくだんのどんぐりまつり』</li> </ul>	<p>◎戸外でのびのびと体を動かし挑戦して遊ぶ楽しさを味わう。</p> 	<p>☆絵本を導入として活用し、教室の環境を子どもと共に作ることで、ごっこ遊びの雰囲気を高めていく。（折り紙製作）</p> <p>♥友達とのつながりを感じたり、挑戦したくなるような言葉かけをする。</p>
11月12日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ロープで遊ぼう」</li> <li>・わんぱくだんからの手紙① (本時への導入)</li> <li>・絵本『わんぱくだんのたからじま』</li> </ul> 	<p>◎友達とのつながりを感じながら、さまざまな縄遊びに挑戦する楽しさを味わう。</p> 	<p>♥縄を使った様々な動きを楽しみながら、縄跳びへの興味や意欲を高める言葉かけをする。</p> <p>☆子ども達の好きな‘わんぱくだん’からの手紙を教師が仕組むことで、本時の活動への期待を高める。</p> 
11月13日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「跳び箱・平均台」で遊ぼう</li> <li>・‘たからの島で遊ぼう’ 作戦会議①</li> <li>・コース作りをしよう</li> </ul> 	<p>◎さまざまな運動遊具に進んで関わり遊ぶ楽しさを味わう。</p> <p>◎自分達の考えを出し合っ て遊び場（たからの島） を作る楽しさを味わう。</p> <p>本時の環境‘たからの島’につながるよう、さまざまな運動遊具に親しませながら遊ばせる。</p>	<p>「なかよしのちからをみせてね！ わんぱくだんより」 ・・・ってかいてあるよ！！</p> <p>☆安全面には十分に配慮しながら、バランス感覚が楽しめるように遊具を組み合わせる。</p> <p>♥幼児から出る自由な発想を受け止め、周りの子にも伝え共有していく。</p>



<p>11月15日 (金)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・‘たからの島で遊ぼう’ 作戦会議②</li> <li>・地図を作ろう</li> <li>・コースの名前を考えよう</li> </ul>	<p>◎自分達の考えを出し合っ て遊び場（たからの島） を作る楽しさを味わう。</p> 	<p>☆教師が意図的にグループ編成 をし、3人で相談してグループ 名を決めさせる。</p> <p>♥子どもの思いを受け止め、考え を公表したくなる雰囲気作り をする。</p>
<p>「いい考え思いついた！」</p>			
<p>11月18日 (月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・‘たからの島で遊ぼう’ 作戦会議③</li> <li>・小道具を作ろう</li> </ul> 	<p>◎自分達の考えを出し合っ て遊び場（たからの島） を作る楽しさを味わう。</p> <p>アイデアを出し合い、協調・協 力しながら作る海賊船。</p>	<p>☆遊びのイメージを広げて小道具 などを作れるよう素材を整 える。</p> <p>♥本時に向けて仲間意識が高ま る様、友達のよさに気付かせる 言葉かけをする。</p>
<p>11月19日 (火)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・‘小さなたからの島で遊 ぼう’</li> </ul> 	<p>◎本時の活動に見通しを持 ちながら、遊びを楽しむ。</p> <p>本時への見通しをもたせることで、 どの子も楽しめるような工夫を図る。</p>	<p>♥本時への期待の高まりに共感 する。</p> <p>☆挑戦したくなるような環境構 成（掲示、絵本のイメージに合 わせた装飾、小さな地図）をす る。</p>
<p>11月21日 (木)</p> <p>本時</p>	<p>◎「たからの島で遊ぼう」</p>  	<p>◎友達と力を合わせのびの びと体を動かして遊ぶ楽 しさを味わう。</p>  	<p>☆子ども達が持つわんぱくだん のイメージを大切にしながら、 体を動かして遊びたくなる環 境を作る。</p> <p>☆多様な動きが経験できる遊び、 友達と力を合わせることで楽 しさが味わえる工夫をする。</p> <p>♥一人一人の姿に寄り添いなが ら、友達と力を合わせて遊ぶ姿 を認めていく。</p> <p>♥気持ちを通わせて遊ぶ喜びに 共感しながら友達のよさに気 付かせる声掛けをする。</p> <p>♥一人一人の自信や次の目標に つながる言葉かけをする。</p>
<p>11月22日 (金)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わんぱくだんからの 手紙②（活動を終えて）</li> </ul> 	<p>◎友達と共通のイメージを 持ちながら遊ぶ楽しさを 味わう。</p> <p>「なかよしのちからをみせて くれてありがとう。スナバさ ばくにちいさなおくりもの」 ってかいてあるよ！</p>	<p>☆わんぱくだんからの手紙を再 び仕組み、友達とのつながり を実感しながら遊びの余韻を 楽しめるようにする。</p> <p>☆砂場での宝探し遊びができる ように環境を準備しておく。</p> <p>♥子ども達の気持ちに共感しな がら共に活動する。</p>

## 2 保育実践指導案Ⅰ

### (1) 活動名 「たからの島で遊ぼう」

(2) ねらい ・友達と力を合わせ、のびのびと体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。

### (3) 活動設定の理由

幼稚園教育要領「健康」のねらいでは、「明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。」「自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。」と示されている。心と体の健康は、相互に密接な関連があることを踏まえ、幼児が、教師や他の幼児との温かい触れ合いの中で、自己の存在感や充実感を味わいながら十分に体を動かす気持ちよさを体験することが大切であると考え。

そこで、子ども達が力を合わせたり、試したりしたくなる運動遊びの環境を子ども達の興味・関心に添いながら、共に作ることで、友達と一緒にのびのびと体を動かして遊ぶ楽しさを味わえるであろうと考え、本活動を設定した。

#### ①幼児の実態

絵本『わんぱくだん』シリーズの世界を楽しみながら、友達と相談して段ボールでロボットや海賊船を作り、イメージを共有しながら遊ぶ子や、折り紙や廃材、落ち葉、木の実などを用いて思い思いに製作を楽しむ姿が見られる。

戸外では、鬼ごっこや土団子作りを楽しむ子、自分なりの目標に向かって竹馬やフラフープ、縄跳びに挑戦する子の姿が見られる。繰り返し挑戦して遊ぼうとする意欲には一人一人に違いが見られる。

#### ②教材観

本活動は、おもに、健康の内容「(3) 進んで戸外で遊ぶ。」「(4) 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。」人間関係の内容「(8) 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。」を組み合わせ構成している。

自分達で考えを出し合って構成した遊び場で、友達と一緒に力を合わせ活動することで、幼児がのびのびと体を動かして遊ぶ楽しさを味わうことが出来るであろうと考える。

#### ③指導観

本時において私が考える‘しなやかな心と体’とは、環境に能動的に関わり、楽しさを発見していく力、友達の気持ちに気付いたり、譲り合ったり、ぶつかり葛藤し、折り合いを付けていく柔軟さ、また、多様な動きを楽しみ、のびのびと体を動かして遊ぶ姿などである。このことから本時の中では子ども達のしなやかさを導き出せるような以下のような指導・援助を行う。

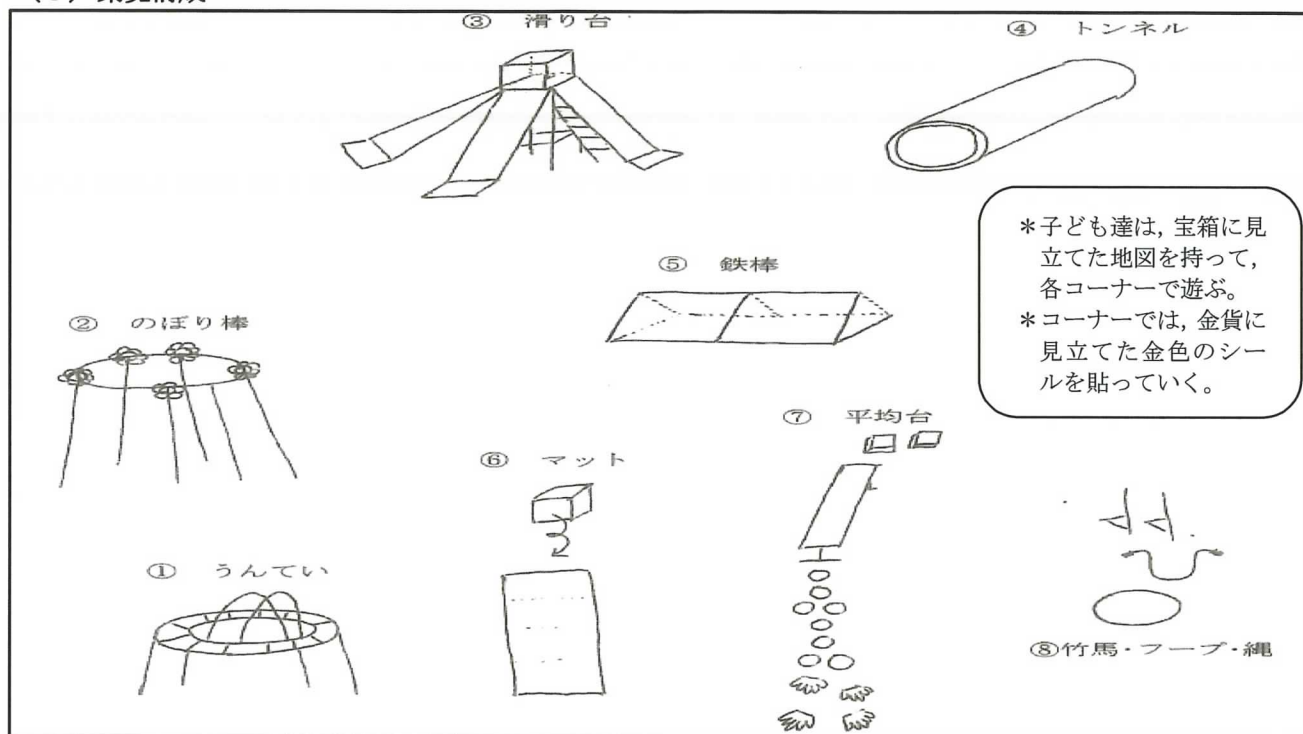
- ・ごっこ遊びの「わんぱくだん」のイメージを大切にしながら、友達と力を合わせて遊ぶ楽しさが味わえるような言葉かけを行う。
- ・3人組で相談しながら遊びを進める様子を見守り、力や知恵を出し合い活動している場面を捉えて、楽しさや喜びに共感したり、さらに意欲が湧くような声掛けをしたりしていく。
- ・体を動かして遊ぶことに苦手意識のある子がいるグループには、特に配慮をし、これまでと比べて変容している点や励まし合う姿を見逃さずに認める援助をする。
- ・友達とのつながりにおいて弱さの見られる子のグループへは、必要に応じて教師も一緒に活動し思いの橋渡しをしていく。
- ・活動後の振り返りでは、自信になるよう一人一人の姿を認め、友達から受けた刺激で新たな目標へとつなげ、次回の活動への意欲になるような関わりをする。



(4) 本時の展開

指導案（本時の展開）			
平成 25 年 11 月 21 日（木）うるま市立城前幼稚園 ひまわり組 24 名（男児 12 名女児 12 名） 保育者 金子 恵子			
幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本『わんぱくだんのロボットランド』の余韻を楽しみながら、友達と相談して段ボールでロボットを作り関わって遊ぶ子や、折り紙や廃材、落ち葉、木の実などを用いて思い思いに製作を楽しむ姿が見られる。</li> <li>・戸外では鬼ごっこや土団子作りを楽しんだり、自分なりの目標に向かって竹馬やフラフープ、縄跳びに挑戦したりする姿が見られる。</li> <li>・葛藤場面でなかなか気持ちの切り替えができなかったり、自分の思いを素直に表現できなかったりする姿が見られる。</li> </ul>		
ねらい	◎友達と力を合わせ、のびのびと体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。		
〈活動仮説〉 自分達の考えを出し合って構成した運動遊びの場において、幼児の思いを受け止め、更なる意欲が湧く言葉かけや、自分の力に応じて試したくなるような環境構成を図ることで、友達と心通わせ、のびのびと体を動かして遊ぶ楽しさを味わうことができるであろう。			
時間	○予想される幼児の活動	☆環境構成 ♥教師の援助	*評価項目
9:15	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師の話聞く。</li> <li>○リズムを踊る。 (僕らはちいさな海賊だ)</li> <li>○3人組になり運動遊びのコーナーを回り挑戦する。</li> <li>○教えあったり、相談したりしながら遊ぶ。</li> <li>○自分の力に合わせて挑戦したり、友達から刺激を受けてやってみようとしたりする。</li> <li>○3人組対抗の遊びをする。 (おしりもじよもじよ競争)</li> <li>○教師や友達の話聞く。</li> <li>○片づけをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆子ども達から出た発想を生かし、頭にバンダナを巻いて気持ちを高めていく。</li> <li>♥前回までの活動を振り返り、今日の活動とのつながりを知らせる。</li> <li>♥十分に体をほぐしながら、活動への期待を高めていけるようにする。</li> <li>♥安全面への配慮をする。</li> <li>♥遊びの中でのトラブルでは、自分達で解決しようとする姿を見守りながら、必要に応じた援助をする。</li> <li>☆3人組の構成は、友達関係のよみ取りや予想される関わりを基に予め教師が行う。</li> <li>☆喜んで取り組み、達成感や充実感を味わえるように、カードやシールを活用する。</li> <li>♥子ども達の姿をみつけ、褒めたり励ましたりしながら共に活動する。</li> <li>♥子ども達が意欲的に勝負に参加したくなるような雰囲気作りをする。</li> <li>♥お互いのよさに触れて遊ぶ中で、子ども達の喜びや楽しさに共感していく。</li> <li>♥一人一人の自信や次の目標につながるような言葉かけを意識する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*興味や関心を持って教師の話聞いているか。</li> <li>*喜んで活動に参加しているか。</li> <li>*友達と協力したり協調したりしているか。</li> <li>*のびのびと体を動かして遊んでいたか。</li> <li>*次の活動に期待を持たせる事ができたか。</li> </ul>
10:20			
評価	*友達と心通わせ、のびのびと体を動かして遊ぶ楽しさを味わうことができたか。		

## (5) 環境構成



\*子ども達は、宝箱に見立てた地図を持って、各コーナーで遊ぶ。  
\*コーナーでは、金貨に見立てた金色のシールを貼っていく。

遊び	環境構成のポイント (遊びに期待するしなやかさの視点)
①うんてい (宇宙人の乗り物)	力に応じていろいろな楽しみ方ができるように、子どもの発想を取り入れた小道具を準備しておく。(助け合う・知恵を出し合う・待つ・譲る等)
②のぼり棒 (ランランのぼり棒)	てっぺんに鈴やカスタネットなどの楽器を結び付けておき、意欲を高める。途中でしか上れない子を把握し、テープを貼っておくことで目標を持てるようにする。(粘り強さ・励まし合い・教え合う・音を楽しむ等)
③滑り台 (宝の坂道)	冒険のイメージに合わせて、綱を垂らしたり、手作りの双眼鏡を置いたりする。(力を出す気持ちよさ・達成感・解放感・イメージを膨らませて遊ぶ等)
④トンネル (海底トンネル)	子ども達の発想(海底トンネル)に合った装飾をし、雰囲気作りをする。(一体感・助け合い・工夫する・励まし合い等)
⑤鉄棒 (3D鉄棒)	技の種類を貼っておくことで、いろいろな技を知り、挑戦する意欲を高める。(友達のよさを認める・進んで挑戦する・いろいろな動きを楽しむ等)
⑥マット (サイコロランド)	遊びへの期待を高めるためにサイコロを活用し、出た目の遊びに3人で挑戦する。(力を合わせる、協調する、ルールを守る等)
⑦平均台 (海賊の一本橋)	跳び箱やフープなどと組み合わせることでコーナーを魅力あるものにする。(いろいろな動きを楽しむ・協調する・ルールを守る等)
⑧竹馬・フープ・縄 (得意技のしま)	竹馬、縄跳び、フープの中から好きなものを選び遊べるように用具を整える。(教え合う・励まし合う・認め合う等)

### 3 仮説の検証 (検証保育 I)

～学級全体の様子から～

前日の様子



前日、手に望遠鏡を持って海賊船に乗り、会話を楽しむ子どもたち。自分達のアイデアを出し合って作った‘たからの島’に期待を持っている様子をみとることができた。

たからのしまで、あそぶぞ!





8つの遊びの中で・・・

①宇宙人ののりもの



自分達で作ったロボット(絵本『わんぱくだん』のロビン2号)を足に挟みレスキュー隊のイメージで助けている。足で反動を付けにくい分、腕の力が求められ、レベルアップした遊び。友達同士で試行錯誤する姿が見られた。



②らんらんのぼり棒



あこがれのまなざし

てっぺんの鈴の音を鳴らし喜ぶ2人。それをうらやましそうにみているJ児(左写真)。教師の「昨日いけた所まで頑張ってみよう」という言葉かけにより、やってみようという気になり挑戦。前日の到達点を目印に自力で上る。途中から手を添え援助し鈴の音を聞くことができ、3人で喜ぶ姿が見られた。



見守る温かなまなざし

③宝の坂道



見慣れた滑り台が普段と異なる遊びの環境になった。そのことが関心を高め、繰り返して遊ぶ姿が多く見られた。てっぺんから手作りの双眼鏡で景色を楽しむ姿も。「宝を見つけたぞ!」の声も聞かれイメージ豊かに遊ぶ姿がみとれた。



④海底トンネル



いるかジャンプで飛び乗ろう!と助走をつけて勢いよくジャンプ。しかし、なかなか飛び乗ることができない子もいた。知恵を出し合って、上から引っ張る子、下から押し上げる子、中には土台となり背中を貸してあげる姿も。友達によさに触れながら遊び、'海底トンネル'ではたくさんの笑顔が発見できた。

トンネルの中には絵本の挿絵やイメージに合わせた装飾をする。



⑤ 3D鉄棒



「鉄棒で回ったり、逆さまになつたりしていると、景色が飛び込んで来るように見えるから」という意見で「3D鉄棒」という名前に決まったこのコーナー。命名後から、本当かどうか確かめてみたいと、逆上がりやこうもり下がりに挑戦する姿が多く見られるようになった。



自分の考えを話し、相手の思いも受け止めながら遊ぶ姿

⑥ サイコロランド



3人の息がぴったり合わないと成功しない技。「1・2の3」と声を掛けながら、気持ちを合わせて挑戦していた。遊びの中で、力を合わせることの大切さ、楽しさを体感していた様子だ。



⑦ 海賊の一本橋



遊んだ結果、平衡性、敏捷性、巧緻性等の力が身についているという発想を大切に、遊びの中で多様な動きを経験させながら‘しなやかな心と体’を作っていくことを意識し、試してみたいくなるよう、遊具を組み合わせ環境を構成した。

⑧ 得意技の島



～2週間後～

得意技の島で縄跳びに挑戦中のJ児、「できない・・・」と悔しそうにしている所へ、同じグループのD児が目をつぶりながら跳んでみせる。「こころのリズムで跳べばできるよ」と自分なりの言葉でアドバイスをくれた。教師も、「始めはゆっくりでいいんだよ」と受容的な関わりをしていった。その後、フープなら得意と回して見せてくれたので、褒め言葉のシャワーを浴びせ、自信につながるようにした。友達の励ましや教師の援助から自己肯定感や有能感が芽生えたのか本時のあとも積極的に練習をしていた。2週間後には「先生、みて！」と嬉しそうに跳んで見せてくれるJ児の姿が・・・。



## おしりもじょもじょ競争



どのグループも意欲的に競争に参加。最下位になったグループの子が、悔し涙を見せる姿も見られた。勝負を通して3人の仲間意識も強まった。



海賊船の中でひと休み・・・

### 〈学級全体の考察〉

学級全体からみた幼児の姿は、観察者のみとりからもほとんどの子が期待を持って喜んで参加していたといえる。子ども達の発想を環境に含ませたことで、能動的に関わり自己発揮しながら遊ぶ姿が多かった。

遊びの中で、幼児の思いを受け止め更なる意欲が湧く言葉かけや、力に応じて試したくなるような環境構成を図ったことで、友達と心通わせ、のびのびと体を動かして遊ぶ楽しさを味わうことができた。

意図的に構成した3人のつながりの様子は、グループによってさまざまであり、自ずとリーダーが生まれ、相談しながら遊びを展開できたグループ、また、3人のかかわりが思った以上に生まれず、「友達と心通わせ」という点において課題を残したグループもあった。

その原因は、遊びの中で多様な動きを仕組む観点を重視した結果、一人でもできる遊びが多くなってしまったことがあげられる。遊びそのものの中に3人でなければできない要素をより多く含ませたり（環境構成）、3人で力を合わせながら進められるよう意識付けたり（教師の援助）する点において更なる工夫が必要である。

このことから、本時の環境構成や教師の援助は概ね有効であったと言える。

本時の遊びの中で発見した子ども達のしなやかさを以下にまとめてみた。

～本時の活動を通して発見できた子ども達の心と体のしなやかさ～

- \* 上手くできない子の身になり自分の言葉で教える姿
- \* 励まされ、やってみようとする姿
- \* 自分の力を相手の為に使おうとする姿
- \* 待ったり、譲ったりする心の働き
- \* 相手のペースを気遣う姿
- \* 「ありがとう」と言える素直な心
- \* できた喜びを体弾ませ表現する姿
- \* 競争に勝ち、喜びを仲間と分かち合う姿
- \* 負けた悔しさから気持ちを切り替えていく姿
- \* 解放感の中、のびやかに遊ぶ姿
- \* 高い所からの眺めに心動かされる姿
- \* 風や陽を心地よいと感じる感性 など



### ～抽出児の様子から～

N児は、活発で優しいが、自分の思いを素直に表現することが苦手で屈折した形で表現することが多い。また、自分のペースを優先にしがちなので周りの子ともトラブルが多い。ふさぎ込むことがあると、気持ちの切り替えまでに時間を要する所がある。

#### 教師の思い

のびのびと遊ぶ中で、素直に自分を表現し、葛藤場面では相手の思いに気づき、折り合いを付ける大切さも学んでほしい。本児の自己肯定感・有能感を高めながら友達のよさにふれさせる援助を行っていききたい。



うんていが苦手なR児に、「乗っていいよ！」と自分の背中を貸してあげる姿がみられた。先へ急ぎたい気持ちを抑え、友達の立場に立って優しさを発揮できたのは、仲間意識をしっかり持ち、友達と心通わせていた表れではないか。また、のぼり棒では二人の立場が逆になっていた。友達が自分のために力を使ってくれたという思いは、これから本児の心の成長を支える上での糧になっていくであろうと考える。



#### 〈抽出児の考察〉

本時のオープニングのリズムの時から、前に出て踊りたいと積極性をみせていたN児の姿より活動への期待感が読み取れた。自分のペースで行動しようとする本児であるが、今日は、R児のことを気遣いながら遊ぶ姿がみられた。自分の力を発揮し、友達と力を合わせて遊ぶ経験ができたことで、自信となり今まで敬遠しがちだった遊び、竹馬やフープなどにも挑戦する姿が多く見られるようになった。本児にとって活動の中での友達とのかかわりや教師の指導・援助、環境構成は概ね有効であったと考える。

## 4 保育実践指導案Ⅱ

(1) 活動名 「仲間と遊ぼう」

(2) ねらい ・仲間と力を合わせることを喜び、一緒につながって遊ぶ楽しさを味わう。

(3) 活動設定の理由

1回目の検証保育をふり返ると、友達と‘つながって遊ぶ’楽しさを味わう点において、環境構成、援助の視点から課題を感じた。そこで、今回の検証保育では、子ども達が友だちとつながって遊びたくなるような環境構成の工夫や友達同士をつなぐための援助の視点を明らかにし、4つの遊びの中に教師の意図を含ませていくことで、仲間と力を合わせ一緒に遊ぶ楽しさを味わえるであろうと考え、本活動を設定した。なお、本活動において‘つながって遊ぶ’ということ「力や気持ちを合わせながら遊ぶ」「さまざまな感情の交流をしながら遊ぶ」「互いのよさに気付きながら遊ぶ」ことなどと捉える。

### ①幼児の実態

冬休み明け、教師や友だちとの再会を喜び、休みにあった出来事を伝え合っている。また、転入生を温かく迎え入れ、友だちの輪の中に誘う姿も見られる。戸外では鬼ごっこやサッカーを楽しむ姿、室内ではルールを教え合ってお正月遊びをする姿がみられる。

### ②教材観

本活動は、おもに、健康の内容「(2)いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。」人間関係の内容「(7)友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。」「(8)友だちと一緒に活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。」を組み合わせ構成している。本時において構成するさまざまな遊びを経験する中で、仲間と力を合わせ、一緒に遊ぶ楽しさを味わうことができるであろうと考える。

### ③指導観

本時において、私が考える‘しなやかな心と体とは’、のびのびと体を動かし解放感を味わう姿、同じ目的に向かって協力・協調しようとする姿、喜びや楽しさ、悔しさなどに共感しながら遊ぶ姿などのことである。このことから、本時の中では子ども達のしなやかさを導きだせるような以下のような指導・援助を行う。

- ・ ‘十二支’の動物になりきってさまざまな動きを楽しむ中で、十分に心と体をほぐして遊べるよう教師がモデルとなったり、させたい動きを生み出す言葉をかけたりする。
- ・ ボール遊びでは、その子が感じている遊びのおもしろさを捉え、それに応じて遊びを膨らませる言葉かけをしたり子どもの心の動きに共感したりしていく。
- ・ ゲームでは、仲間と力や知恵を出し合っている場面を捉えて子ども達の姿を認めていき、友達と協力



して遊ぶことで喜びが深まり、遊びがより豊かになっていくことを感じ取らせていく。

- ・ 体を動かして遊ぶことに苦手意識のある子には、遊びを通して自己肯定感・有能感が得られるような働きかけを心がけ、自分なりに取り組もうとする態度を認めていく。

#### (4) 本時の展開

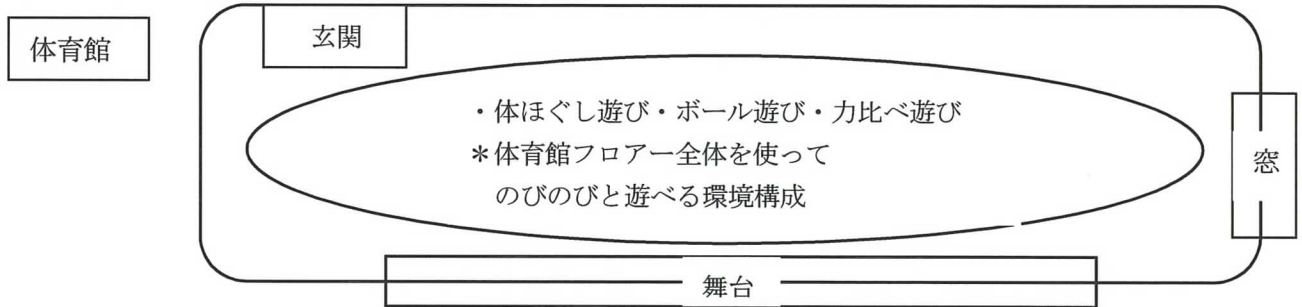
指導案(本時の展開)			
平成 26 年 1 月 10 日 (金) うるま市立城前幼稚園 ひまわり組 25 名(男児 12 名 女児 13 名)			
幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 冬休み明けの友達との再会を喜び、お正月遊びを一緒に楽しむ姿が見られるが、中には園生活のリズムをなかなか取り戻せない子も数名見られる。</li> <li>・ 園庭では、ルールを教えあいながらサッカーを楽しむ子、2 学期に挑戦していた遊びに繰り返し取り組もうとする子の姿が見られる。</li> <li>・ コマ回しでは上手くひもを巻けず、投げ出そうとする子へ優しく教えてあげる姿が見られる。</li> <li>・ カルタやすごろくなどの遊びを通して、文字や数字への関心の高まりが感じられる。</li> </ul>		
ねらい	◎ 友達と力を合わせることを喜び、心通わせて遊ぶ楽しさを味わう。		
〈活動仮説〉 運動遊びの場において、友達のよさや、協調・共感して遊ぶ楽しさを感じ取れるような援助やのびのびと自分の力を発揮し、友達と協力したくなる遊びの環境構成を図ることで、仲間と力を合わせることを喜び、心通わせて遊ぶ楽しさを味わうことができるであろう。			
時間	○予想される幼児の活動	☆環境構成 ♥教師の援助	*評価事項
9 : 15	○教師の話聞く。  ○体ほぐし遊びでいろいろな動きを楽しむ。 (十二支の動物になって)  ○友達と力を合わせてボール遊びをする。 ①ボールわたしゲーム ②運んで遊ぼう (まり、ビーチボール、恐竜の卵、日本一大きなみかんなど)  ○ゲーム(大根抜き)で力比べをする。	♥話をしっかり聞こうとする子の姿を褒め、周りの子にも波及させていく。 ♥一人一人の表現を認めながら、感じ方、表現の仕方の多様性をよさとして気付かせていく。 ♥遊びの中で子ども達に任せていく要素、自己決定できるような仕組みをしていく。(ボールの位置・ボールの渡し方など) ☆全員が見通しを持って参加できる様に、教師がモデルとなり手本を示す。 ☆遊びへの期待を高めるために、「はてなの箱」を用意し、くじを引き、運ぶものを決めていく。 ♥多様な動きがうまれるような言葉かけをする。 ♥相手のペースや動きを考えながら活動しようとする姿を捉え、しっかりと褒めていく。 ♥安全面への注意を促しながら遊びを進めていく。 ♥友達と喜びや悔しさを共有しながら遊ぶ姿を見守っていく。 ♥一人一人が充実感や友達と遊ぶ楽しさを感じられるような言葉かけを意識する。	*興味や関心を持って教師の話聞いているか。  *喜んで活動に参加しているか。  *同じ目的に向かい友達と協力したり協調したりしているか。  *意欲的にゲームに参加しているか。 *進んで力を合わせ遊んでいるか。 *リズムにのり友達との触れ合いを喜んでいるか。 *次の活動に期待を持たせることができたか。
10 : 15	○教師や友達の話聞く。		
評価	友達と力を合わせることを喜び、心通わせて遊ぶ楽しさを味わう事ができたか。		

#### (5) 環境構成

本時は、「仲間と力を合わせることを喜び、一緒につながって遊ぶ楽しさを味わう。」ことをねらいとし、「設定保育」として活動を展開する。一斉に遊ぶ中にも、「自由さ」の視点を大切にし、一人一人の能力やテンポに応じ、幼児自身の選択、目標の設定、取り組みの方法や発想を束縛しないような工夫を環境構成に含ませていく。また、本時の環境構成をするにあたり、岸井勇雄(2009)が示す「遊びの本質「楽しさ」の意義」(表3)を感じられるよう、環境を構成していく。

表3 ～遊びの本質「楽しさの意義」～

①	したいことをする楽しさ(自発・主体性の発揮)	⑥	人の役に立つ, よいことをする楽しさ (有用・善行)
②	全力を出して活動する楽しさ(全力の活動)	⑦	存在を人に認められる楽しさ(人格の承認)
③	できなかったことができるようになる楽しさ (能力の伸長)	⑧	共感する楽しさ(共感)
④	知らなかったことを知る楽しさ(知識の獲得)	⑨	よりよいものに出会う楽しさ(よい経験)
⑤	考え出し, 工夫し, 創り出す楽しさ(創造)	⑩	好きな人とともにある楽しさ(愛・友好)



遊び	環境構成のポイント (遊びに期待するしなやかさの視点)	楽しさの意義①～⑩の視点
体ほぐし遊び (十二支になって)	幼児の興味・関心に添い十二支の動物カードをイメージの共有化の手だてとして用いながら, 多様な動きを引き出していく。 <b>(解放感, 友達のよさを発見する, 一体感)</b>	①, ②, ⑤, ⑦, ⑧, ⑨, ⑩
ボール遊び (ボール渡しゲーム) (はこんで遊ぼう)	教師がモデルとなりやり方を示す。 自己決定できるようなボールの配置の工夫 <b>(ルールを守る, 協力・協調する, 共感)</b>	①, ②, ③, ④, ⑤, ⑧, ⑩
力比べ遊び (大根抜きゲーム)	リズムに合わせて力比べができるよう曲を用意する。 <b>(知恵を出し合う, 達成感, 一体感)</b>	①, ②, ④, ⑤, ⑥, ⑧, ⑩

5 仮説の検証(検証保育Ⅱ)～学級全体の様子から～

○体ほぐし遊びでいろいろな動きを楽しむ。(十二支の動物になって)



～蛇になって～

好きな方向に向かって這って進む。友達の表現にも触れながら自分なりの蛇の動きを楽しむ中で, 笑顔が増え, 心と体がほぐれていく。

～にわとりになって～

跳ぶ, 駆けるなど全身で表現する姿や「美しい鳴き声だね」と誘い出す言葉かけにより, 鳴き声を表現する姿が波及した。

～龍になって～

長い龍を表現するのに, 「友達とつながればできるよ!」とお互いの体を連結させて体をくねらせ, 長い背中を表現することができた。

○ボール遊びをする。(ボールわたしゲーム)



‘手から手に渡す’ことを決め, 渡し方は子ども達に任せていく。上から, 横へ, 股の下をくぐらせてなど動きのバリエーションを楽しむ姿が見られた。

ボールを置く場所を子ども達にも決めさせた。ドリブルでボールを運び, 好きなボールで折り返す。自己決定できる要素を遊びの中に多く含ませることが, 主体的に自分の力を発揮しようとする態度につながった。





はてなの箱



友達と一緒に運んで遊ぶことで、ものとのコントロール、人とのコントロールの両方を体験する。その中で相手と協調しながら遊ぶという態度をみる事ができた。

運ぶものを決める‘はてなの箱’の中には遊びの中で、新しいことを知る楽しさや工夫、共感する楽しさを含ませた環境を構成する。‘まり’‘ビーチボール’‘日本一大きなみかん’‘恐竜の卵’などを仕組む。



同じ目的に向かって友達と力を合わせて遊んだ結果、自分のチームの勝利を手を合わせて願う姿、勝った喜びを体いっばいに表現する姿が見られた。



### ○力くらべ遊び（大根抜きゲーム）



うんとこしょ！  
どっこいしょ！



Sさん、大丈夫？

百姓役は全力を出して遊ぶ楽しさ、大根役の子達はしっかりとつながって力を合わせることで生まれる一体感を味わいながら、協力して遊ぶ楽しさを味わうことができた。

ゲームの途中で、納得がいかに泣いているS児、その横でS児の思いを代弁するR児、「笑いごとじゃないよ！」と自分の身に置き換えて考えるK児、ルールを破ったことを認め「ごめんなさい」が言えたI児達のさまざまな思いに触れ、S児も次第に気持ちを切り替えることができた。

### 〈学級全体からみた考察〉

‘体ほぐし遊び’の場面では、個々の表現を楽しむ中で、お互いの表現の違いをよさとして捉え、刺激を受けながら遊ぶ姿がみられた。また、友達とつながればよりよい表現ができることにも気づき、仲間と協力して遊ぶ楽しさを味わうことができた。

紅白のチームに分かれての‘ボールわたしゲーム’では、相手が受け取りやすい様に渡し方を工夫しながら遊ぶ姿やチームとして友達を応援し、勝った喜びを共有する姿などがみられた。

‘はこんで遊ぼう’の場面では、不思議さや新しいことを知る喜びを共感しながら環境に興味を持って見入り、ものや人に対して力を調整しながら遊ぶ難しさやおもしろさを味わっていた。

‘力比べ遊び(大根抜き)’では、納得がいかに泣いているS児の思いを囲む時間を設けたことで、さまざまな思いの交わり合いや、自分も相手も大切にしながら問題を解決していく場を共有することができた。

これら4つの遊びを通して以上のような姿、態度をほとんどの子にみる事ができた。このことから、本活動においての教師の言葉かけ等の援助や環境構成の工夫は概ね有効な手立てであったと考える。

しかし、中には本活動の中で十分な自己発揮や仲間とつながって遊ぶ楽しさを味わうことができない子



も数名いた。その要因を考えてみた。教師の援助が、活動を引っ張っていくことや学級全体への働きかけに傾いてしまった。そのため、個別のかかわりを欲している子に対し、気持ちを汲みとったり、励ましたりなどの援助がタイミングよく行えなかった。また、さまざまな友達とのつながりを保障する、遊びを通じた育ちあいの積み重ねが不十分であったこともあげられる。どの子にも行き渡る援助を目指す上で、「しなやかさを導き出すための教師のかかわり」(P5, 表2)が、教師から子どもへだけではなく、子ども同士でも相互に行われることが、さらに望ましい集団の姿であると捉える。そのために、友達同士のつながりを保障する年間を見通した遊びの指導計画(P6, 表3)の活用が大事であると考えられる。

～抽出児の様子から～

R児は、友達思いの大きな性格で周りからも慕われている。鬼ごっこなどの体を動かす集団遊びでは、遊びを傍観していたり、‘一緒にやりたい’と動き出すまでに時間を要することが多かった。運動遊びには苦手意識を持っているため、自分から進んで体を動かして遊ぶ姿があまりみられない。

教師の思い

運動遊びを通して友達と一緒に体を動かして遊ぶ楽しさを味わわせたい。楽しみの中から自己肯定感や有能感を得ることで、自ら体を動かそうとする意欲が芽生え、のびのびと体を動かして遊ぶ態度が育ってほしい。

～十二支になって遊ぼう～(へび・にわとり)



周りの子が這って動き始める中、座り込んで「固まった石みたいなへび」を表現するR児、にわとりになって遊ぶ時にも「座っているにわとり」といい静的な表現を好む。教師は体を動かして遊ぶ楽しさを味わってほしいという思いを持ちながらも「とぐろを巻いた蛇に見えて怖かったよ!」と、その子なりの表現に共感し、姿を承認していく。



「みんなでつながればいい!」という友達のアイデアに心動かされた様子。龍を表現する時には、自分から進んで体を動かし、友達とつながって龍の長い背中を表現していた。しばらくして、友達と二人で「小さいドラゴン」になって這って遊ぶ姿が見られた。へびの時には経験できなかった‘這う’動きをR児はこの時に経験したことになる。



2ひきの小さいドラゴンだよ!

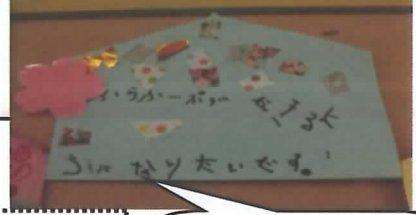
～ボールわたしゲーム・はこんで遊ぼう～



遊びの中で、友達のペースを気遣うつぶやきがよく聞かれた。優しく大きなR児のよさに触れ、友達とのつながりの面で弱さの見られるK児も笑顔で安定して活動に参加することができた。自分のチームの勝ちを喜び、笑顔でガッツポーズをして喜ぶ姿が見られた。



## ～力比べ遊び～



力を発揮して遊ぶ姿をみつけ、「力強くていいね！」と事実と評価を R 児に返していく言葉かけをし、体を動かして遊ぶ心地よさが本児のものになるようにする。

ふらふーぷができるようになりたい。

### 〈抽出児の考察〉

活動の序盤では、自ら進んで体を動かそうとしなかった R 児であるが、教師が本児の遊びのテンポを大事にしながら共感的に関わったことが、苦手な運動遊びに対しても、自分でもやればできそうだという安心感や前向きな態度につながったのではないかと考えられる。

龍になって遊ぶ場面では、友達の「みんなでつながればいい！」というアイデアによさを認め、自分も一緒にやってみたくて心弾ませる姿に、R 児のしなやかな心の動きを見ることができた。

力比べ遊びでは、のびのびと力を発揮し遊ぶ姿に加え、泣いている友達の気持ちを自分の言葉で代弁する場面が見られた。友達の悔しさに共感し、励まそうとする R 児の柔らかな心の働きをみることができた。

また、本時終了後の保育の中で手作りの絵馬に「フラフープができるようになりたいです。」という気持ちを表しており、運動遊びに対して自分から目標を持ち、取り組もうとする変容が見られた。

以上のようなことから、R 児に対しての友達との関わりを重視した教師の援助や環境構成は概ね有効であったと考える。

## VII 研究の成果、課題・対応策

### 1 成果

- (1) 幼児の興味・関心に添い、幼児自らが展開している遊びの流れから環境を構成したり、一斉活動の中で遊びの本質である楽しさの意義を明らかにし、環境に含ませたりしたことで、運動遊びの環境を通して幼児のしなやかさを導き出すことができた。
- (2) 意図的なグループ構成により、控えめだった子のリーダー性が導かれたり、新たなつながりが生まれたりし、お互いのよさに触れることで友達関係の広がりや深まりが見られた。
- (3) 教師が幼児の遊びに対する関心や、得手・不得手などを予め把握し、一人一人に応じ承認や共感、励まし、期待などの言葉かけを適切に行うことで、自ら体を動かして遊ぼうとする態度や更なる意欲を喚起することができた。

### 2 課題・対応策

- (1) 1 回目の検証保育と 2 回目の検証保育において、仲間とのつながりの中で自己発揮する姿に違いのある子が見られた。年間を貫く仲間同士の育ち合いの在り方を探っていきたい。
- (2) 本研究で取り組んだ、幼児のしなやかさに迫る環境構成や援助の方法を、運動遊びに限らずさまざまな遊びの中で深め、より有効な手立てを見いだしていきたい。

### 《参考・引用文献》

- 文部科学省 平成 20 年 10 月 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館  
文部科学省 2013 『幼児期運動指針ガイドブック』(株) サンライフ企画  
岸井勇雄 2012 『新版 遊びの指導』 同文書院  
民秋言 小田豊 枳尾勲 無藤隆 2009 『保育内容 人間関係』 北大路書房  
民秋言 小田豊 枳尾勲 無藤隆 2009 『保育内容 環境』 北大路書房  
河邊貴子 2008 『保育内容 健康』 建帛社  
森上史朗 柏女霊峰編 2008 『保育用語辞典第 4 版』 ミネルヴァ書房  
岩崎洋子編 2008 『保育と幼児期の運動遊び』 萌文書林  
柴崎正行編 2000 『保育環境の構成』 小学館